opusdei.org

四旬節、復活祭への 道(3)

イエスのサタンに対する勝利 は、私たちを希望で満たしま す。イエスとともにいれば、 私たちも内的な戦いにおいて 勝利できることがわかるから です。

2025/03/14

これまでの記事を読む

キリストの荒れ野での歩み

四旬節第一主日の福音では、イエス が、私たちと連帯して、四十日間荒 れ野で過ごした後、誘惑を受けるこ とを望んだことが語られます。イエ スのサタンに対する勝利は、私たち を希望で満たします。イエスととも にいれば、私たちも内的な戦いにお いて勝利できることがわかるからで す。ですから、私たちはもはや誘惑 に心をかき乱されません。誘惑は、 自分自身をもっと知り、神をさらに 信頼する機会となります。快適な生 活を追い求めることは、幸福の幻影 にすぎないことを悟り、聖ホセマリ アとともに、「まだ取り組むべきこ とがたくさん残っている」「特に、 高慢な心が幅を利かせている」「利 己主義が影をひそめ、私たちの内に キリストが成長できるためには、再 び生活を一新し、より完全・忠実 に、また、より深い謙遜を身につけ る決意が何にもまして必要だし「あ の方は栄え、わたしは衰えねばなら ないし言ことに気がつきます。

自らの弱さを知ることは、私たちを 謙遜な祈りへと導き、信仰・希望・ 愛を生き生きとさせます。聖ホセマ リアは頻繁に「主よ、私をあなたか ら遠ざけるものを、私から遠ざけて ください!コッと祈りました。イエス とともにいることで、私たちは誘惑 を断固として退ける力を得ます。そ して誘惑とは決して対話しません。 「イエスのこたえ方によく注意して ください。イエスは、地上の楽園で エバがしたように、サタンと対話す ることはしません。 (…) イエス は、(…)神のことばのうちに逃れ ることを選び、神のことばの力を もってこたえます。このことを心に 留めてください。誘惑のとき、すな わち、わたしたちがさまざまな誘惑 を受けるとき、サタンと議論しては なりません。むしろ、つねに神のこ とばによって身を守ってください。 そうすればわたしたちは救われま す | 137g

四旬節第二主日に読まれる主の変容の話は、私たちが限界を持つ者であっても、勝利は確実であるという確信を新たにしてくれます。日々るな生活の中で主の十字架と一致する。その光にもあずかります。そのためには、信仰を養うことが必ず。A年の四旬節第三~五主日です。A年の四旬節第三~五主日で読まれる福音は、信仰を深める道を教えてくれます。

- サマリアの女性は、罪を乗り越 えてイエスをメシアとして認 め、聖霊の「生ける水」によっ て愛の渇きを癒しました[4]。
- 生まれつきの盲人は、無知を乗り越えてキリストを「世の光」として受け入れました。一方で、〈世の知者〉たちは盲目の状態にとどまりました。
- ラザロの復活は、キリストが私 たちに新しい命をもたらすため に来られたことを思い起こさせ ます[6]。

これらの場面の登場人物になったつもりで、福音書を黙想することは、 個人的な祈りの助けとなり、四旬節 の間、より強く神の現存を保つ役に 立つことでしょう。

[1] 『知識の香』58番。

[2] 家族の集いでのメモ、1972年10 月18日(A. Sastre, Tiempo de Caminar, Rialp, Madrid, 1989, p. 353)。

[3] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2014年3月9日。

[4] ヨハネ4·5-52 (四旬節第三主日A 年福音朗読)。

[5] ヨハネ9·1-41 (四旬節第四主日A 年福音朗読)。 [6] ヨハネ11·1-45 (四旬節第五主日 A年福音朗読)。

Alfonso Berlanga

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shijyunsetsu-fukkatsusai-michi3/(2025/12/16)